

齋藤茂樹の 北関東巡り



令和5年(2023) 2月8日

11

しもつけのくに 下野国（現在の栃木県）生まれの慈覚大師 円仁は、最澄に師事し、のちに最後の遣唐使として苦難の末に唐へ辿り着き、修行を経て帰朝後、関東や東北地方で布教・救済を行いました。また延暦寺の発展にも尽くしています。

遣唐使として二度渡海に失敗、三度目に唐へ

令和2年(2020)、私は愛知から栃木に戻ってきて、また円仁ゆかりの地を訪ねました。

円仁（延暦13年(794)-貞観6年(864年)）は、第三代天台座主、下野国の生まれで出自は豪族の壬生氏です。



円仁展の図録、音楽劇のプログラム(栃木県立博物館)

円仁は、目黒不動として知られる龍泉寺や、山形市にある立石寺、松島の瑞巖寺などを開いたと言われています。ほかにも、円仁が開山したり再興したりしたと伝わる寺は関東に209寺、東北に331寺余あるとされ、平泉中尊寺や浅草の浅草寺もそのひとつです。円仁の性格は円満にして温雅、眉の太い人であったようです。

壬生寺は、円仁の誕生地伝説の地で、栃木県下都賀郡壬生町にある天台宗の寺院です。山号は紫雲山と称します。境内に産湯の井戸があります。

壬生には観光の見どころはたくさんありますが、壬生寺は住宅地の中にあり観光地的雰囲気は全く無く、静かな雰囲気の中に佇んでいます。



紫雲寺壬生寺山門

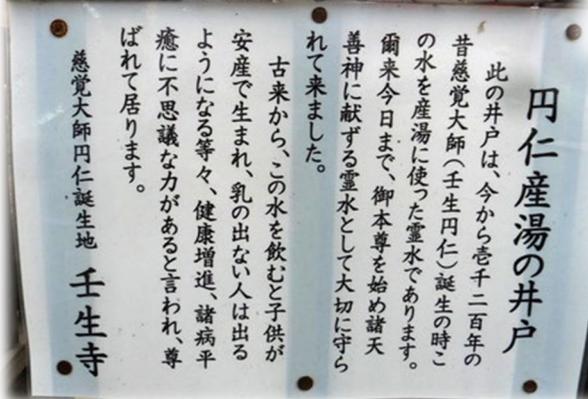


円仁産湯の井戸



紫雲山壬生寺の由来
 壬生寺は、慈覚大師円仁の誕生地(七九四年)として信仰されて来ましたが、大徳堂は、江戸時代貞享三年(一六八六年)日光山輔王寺門跡天眞親王が壬生親主三清巻坂守に命じ再興し、後に小山市飯塚の台林寺を移し別当とした。その後、大正二年(一九一三年)大師千五〇年御遷忌に、壬生町信徒が慈覚大師願忌会を組織し、町民協力し東京上野寛永寺内の天台宗学問所(旧勸学寮)を移築して本堂とする。
 大正五年新たに壬生寺を創立し現在に至る。尚、境内には慈覚大師産湯の井戸がある。本堂には大師が唐より持ち帰り植えられた樹齢千年の白檀の木で作られた大師像が安置されている。

壬生町観光協会



円仁産湯の井戸
 此の井戸は、今から千二百年の昔慈覚大師(壬生円仁)誕生の際の水を産湯に使った霊水であります。爾来今日まで、御本尊を始め諸天善神に献ずる霊水として大切に守られて来しました。
 古来から、この水を飲むと子供が安産で生まれ、乳の出ない人が出るようになる等々、健康増進、諸病平癒に不思議な力があると言われ、尊ばれて居ります。
 慈覚大師円仁誕生地 壬生寺

円仁の偉業

円仁が成し遂げた偉業には、つぎのようなものがあります。

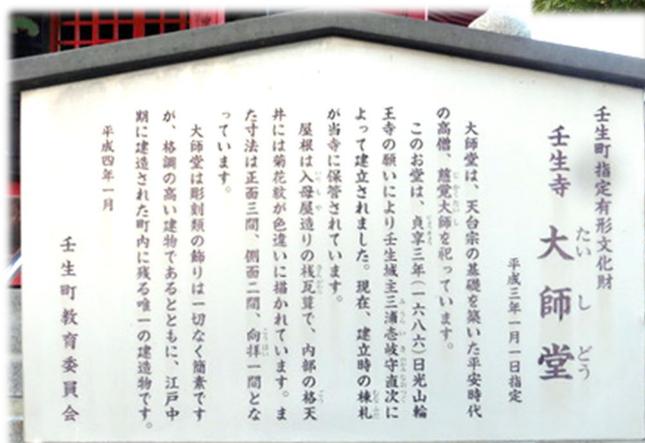
- 最澄に師事し最も信頼された。
- 疫病と地震の被害にあった関東・東北地方で布教・救済を行った。

- 延暦寺を発展させ、もんじゅうろう文殊楼や横川のによほうとう如法塔などを建立した。
- 遣唐使として留学。渡航・帰国に大苦戦(渡航は二度失敗、三度目も船は全壊、帰国時は仏教弾圧の最中でした)
- 唐では規制・仏教弾圧・治安悪化の中、9年6ヶ月で霊山巡礼や膨大な経典を書写し、それら経典を搬入した。(合計559巻)
- 唐での出来事を書き綴った「入唐教法巡礼行記」が高く評価され、ライシャワー元駐日大使は「マルコポーロの東方見聞録に勝るとも劣らない」と評した。(ライシャワー氏は円仁ゆかりの栃木県大慈寺だいじじを訪問植樹した。)
- 帰国後多くの寺を開山や再興した。



私は栃木県に就職してから、「円仁誕生の地」「円仁ゆかりの地」という標識をよく目にするようになりました。

最も印象に残っているのは、平成14年(2002)1月岩舟町文化会館(コスモスホール)で上演された「音楽劇 慈覚大師 円仁 最後の遣唐使 入唐救法巡礼行記より」です。その音楽劇には知人が多く参加していましたし、主演の上條恒彦さんの熱演に感動したことを鮮明に覚えています。グッズに上條さんのサインを頂きました。



円仁が出家剃髪した大慈寺

栃木県の岩舟にある大慈寺は、円仁が出家し最初に修行をした天台宗のお寺で、境内には出家剃髪に使用された井戸、円仁像、大師堂、ライシャワー元駐日大使の碑とお手植えのメタセコイア、小野小町伝説にまつわる解説などがあり、見どころ満載です。天平9年(737)の開基とされています。

弘仁8年(817年)、最澄が弟子たちとともに東国を巡錫した際、当寺にて大乘戒の授与を行い、東国への天台布教の足場としました。また、法華経による国家鎮護のため、最澄が日本国内の6箇所を計画した六所宝塔の一つがここ大慈寺に建てられています。

円仁研究家としても名高いライシャワー元駐日大使が、昭和39年(1964)に同寺を参拝しました。それを記念した碑と植樹したメタセコイアが残されています。





ライシャワー参拝記念碑



大慈寺太子堂

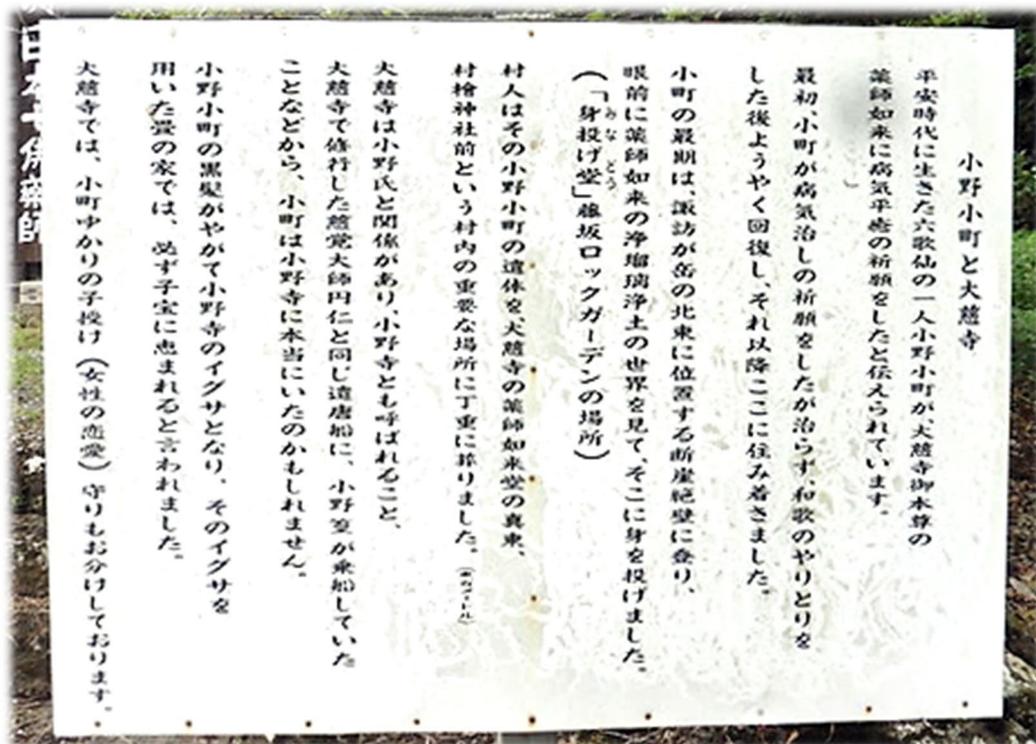
大慈寺と小野小町

平安時代の六歌仙の一人小野小町が、大慈寺御本尊の薬師如来に病氣平癒の祈願をしたと伝えられています。

小町ゆかりの子授けとして、女性の恋愛御守りを置いています。



円仁剃髪の井戸



小野小町と大慈寺

平安時代に生まれた六歌仙の一人小野小町が大慈寺御本尊の薬師如来に病氣平癒の祈願をしたと伝えられています。

最初、小町が病氣治しの祈願をしたが治らず、和歌のやりとりをした後ようやく回復し、それ以降ここに住み着きました。

小町の最期は、諏訪が岳の北東に位置する断崖絶壁に登り、

眼前に薬師如来の淨瑠璃浄土の世界を見て、そこに身を投げました。

(「身投げ堂」雄坂ロックガーデンの場所)

村人はその小野小町の遺体を、大慈寺の薬師如来堂の真東、

村檜神社前という村内の重要な場所に丁寧に葬りました。(2011年)

大慈寺は小野氏と関係があり、小野寺とも呼ばれること、

大慈寺で修行した慈覚大師円仁と同じ遺唐船に、小野妻が乗船していた

ことなどから、小町は小野寺に本当に行ったのかもしれませんが、

小野小町の黒髪がやがて小野寺のイグサとなり、そのイグサを

用いた愛の家では、必ず子宝に恵まれると言われました。

大慈寺では、小町ゆかりの子授け(女性の恋愛)守りもお分けてしております。

最澄にしたがい延暦寺で修行した円仁

私は仕事で愛知県にしばらく住んでいました。比叡山延暦寺は景色が素晴らしく、交通手段も車のほか鉄道やケーブルカーなども楽しめて、歴史的建造物や仏像や資料を楽しむほか、いろいろなイベントも行われていて何度も足を運びました。

天台宗は、平安中期以降、山門（延暦寺）と寺門（園城寺）の両派に分かれて相争いましたが、山門派の祖とされるのが円仁でした。円仁は15歳で比叡山に登り、以後最澄にしたがい修行しました。承和2年(835)から13年間唐に渡り、長安で密教を学び、日本天台宗の密教化の端緒をつくりました。円仁の唐における修行の記録は『入唐求法巡礼行記』として伝わっています。



比叡山延暦寺横川 根本如法塔



製作所

慈覚大師円仁 (794~864) 天台宗延暦寺 第三世座主

十五歳の時比叡山に登り、伝教大師に師事して天台の教えを学んだこの横川の地に隠棲して草庵をむすび四種三昧をおこし、根本如法塔を建てるなどして横川の基をさだめたその後入唐の折に悪風にあつて海に大師を没せんとするとき大師は観音力を念ずると、観音菩薩が現われたちまち風晴れ浪平らいだという傳山ののち一堂を建て観音様をお祀りしたのが横川中堂の始まりとされているまた大師はこの地の霊泉を汲んで法華経の書写を志ざされた一字一句もこれみ仏と仰ぎ合掌しつつ書写する写経は仏教最高の法会として今に伝えられ横川は全国信徒の写経会のメッカとなっている。

こんぼんにょうほうとう

根本如法塔は、自然積みの石段を登った所に見られる塔で大正14年(1925)に再建されたも

のです。円仁が書写した仏教経典を塔中に安置しています。如法とは「仏の道理にかなっている」「仏の教えどおりである」との意味です。根本如法塔は円仁が根本杉のほころいの中で如法写経を始めたことに由来するといひます。

こんぼんちゅうどう

根本中堂は、延暦寺の総本堂に位置し、世界遺産に指定されています。

現在見られる根本中堂は江戸時代の寛永19年(1642)に再建されたもので国宝に指定されており、外観以外の一切が撮影禁止です。



延暦寺根本中堂 10年がかりの改修工事



延暦寺 文殊楼

延暦寺の東塔エリアにある文殊楼^{もんじゅろう}は、貞観8年(868)、円仁がもっぱら坐禅を行う修行「常坐三昧」を行なう道場として、唐留学時代に修行した五台山(文殊菩薩の聖地)の文殊菩薩堂に倣って創建したのが始まりです。

高い石段を隔て根本中堂の東側に位置し、延暦寺の山門(根本中堂の正門)ともなっており、根本中堂からは急な石段を登ることになりますが、逆側からは比較的楽に行けました。

ゲゲゲの鬼太郎と比叡山の七不思議展

「ゲゲゲの鬼太郎と比叡山の七不思議展」を見学しました。水木プロダクションに委嘱して製作されたゲゲゲの鬼太郎仕様の掛け軸や巻物などが公開されていました。



鬼太郎の百鬼夜行図



「鬼太郎の百鬼夜行図」は撮影OKでした。



鬼太郎のラテアート

比叡山ドライブウェイからは、琵琶湖と京都市街の両方を見ることができ京都御所の場所もよく判り、快適でした。

〔編集者・加藤良一よりひとこと〕

冒頭に「円仁は、目黒不動として知られる龍泉寺や、山形市にある立石寺、…」紹介された目黒不動は、東京都目黒区下目黒にある天台宗の寺です。

私は下目黒二丁目で生まれましたので、子どもの頃、「お不動さん」の境内は格好の遊び場でした。今から思えば、ずいぶんと危ないこともやりましたが、大きな怪我などしなかったのは「お不動さん」のご利益でしょうか。

不動明王像を本尊とするので、昔から「目黒不動尊」とか「目黒不動」と呼ばれていました。江戸三大不動の一つ、江戸五色不動の一つ、江戸三十三箇所第33番札所、関東三十六不動第18番。また、さつまいもの栽培を広めた青木昆陽こんようの墓が裏手にあり、子どもたちは甘藷先生と呼んでいたと記憶しています。

〔バックナンバー〕

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 1 | <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 6 |
| <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 2 | <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 7 |
| <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 3 | <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 8 |
| <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 4 | <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 9 |
| <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り 5 | <input type="radio"/> 齋藤茂樹の北関東巡り10 |

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る